

# 教員採用試験 年間学習モデルプラン

	10月～12月	1月～3月	4月～6月	7月	
	基本力養成期	実力養成期	直前対策期	本試験	
教職教養	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ホットな教育問題に関心をもとう。</li> <li>●教職のテキスト、参考書などを精読する。</li> </ul> <p>★来年の試験まで、唯一、余裕のある期間。まとめて読書をしたり、学習計画を練ったり有効に使おう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教職教養の対象となる全領域・全分野についてテキスト・参考書で確認する。出題範囲の把握が大切な時期。</li> <li>→『教職教養の重点研究』『教職教養のパスライン』『教職教養の頻出問題』（時事通信社）『教職ランナー』（一ツ橋書店）『生徒指導の手引き（原理編）』（時事通信社・内外教育研究会発行）の最新年度版『学習指導要領』（文部科学省）などを利用しよう。</li> <li>●受験する県の実施問題を分析する。過去3カ年の県別出題分析による出題傾向の把握。</li> <li>→『教職教養の実施問題』（時事通信社、協同出版）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●いじめ、不登校、学級崩壊、非行などの指導に関する知識を身につける。</li> <li>●実施問題の分析結果による弱点領域・分野の復習と補強</li> <li>→『教職教養パスライン』『教職教養ランナー』『教職教養の頻出問題』『教職教養の実施問題』</li> <li>●重要事項をまとめた自分流のサブノートの作成を！</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●引き続き、頻出領域・分野の問題演習の取り組みを。</li> <li>●サブノートの見直しと、さらなる内容の充実。教育法規や学習指導要領、答申など、暗記が必要な内容の早期マスター。</li> <li>→『教職教養スコープ』『教育法規スコープ』</li> </ul>	7月の第1日曜日から各ブロックごとに試験開始
一般教養	<ul style="list-style-type: none"> <li>●過去3カ年の実施問題集で志望県の出題傾向を分析し、傾向と対策をたてる。</li> <li>→『一般教養の実施問題』（時事通信社）『各県教員試験対策シリーズ』（協同出版）</li> <li>●苦手科目の基礎・基本を確実に。特に理数は早めに。小学校受験生は、中学生用のテキスト・問題集のマスターを。</li> <li>→月刊誌『教員養成セミナー』『教職課程』の一般教養の連載を活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●志望県の最新の実施問題を分析する。出題傾向に変化がないか確認。</li> <li>●志望県の出題領域・分野のうち、弱点・苦手の部分を中心に徹底的な復習を。</li> <li>●出題傾向の似た他県の類似問題にも数多く挑戦。</li> <li>→過去3カ年の『一般教養の実施問題』</li> </ul> <p>★時事問題はこの時期から翌年の試験本番までをチェックしていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●志望県の出題パターンに合った問題演習を繰り返す！</li> <li>●苦手意識の一扫を！ 解けない、分からない、ならば「基礎・基本」に立ち返る。「急がば回れ」。</li> <li>●公開模擬試験（学内模擬試験）に参加しよう。客観的な実力判定ができ、その後の試験対策に有効。就職支援室から募集案内がある。</li> </ul>		
専門教養	<ul style="list-style-type: none"> <li>●小学校受験者は、専門知識を深めるために、中学校レベルの対象教科を完全習得する。</li> <li>●中高受験者は、受験教科の中高教科書、参考書をマスターする。</li> <li>●小中高とも学習指導要領の「各教科」および学習指導要領の該当教科の「解説」書を精読する。学習指導要領と指導法対策には必須の条件である。</li> <li>→『小学校全科ランナー』『小学校全科のパスライン』『中高頻出問題』</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●出題傾向に沿って徹底した問題演習を行う。できないところは「オリジナル・サブノート」の作成を。弱点と苦手の克服がカギ。</li> <li>●学習指導要領とその「解説」書は、一覧表にしてまとめると覚えやすい。</li> </ul>			
一般教時事・事	<ul style="list-style-type: none"> <li>●試験直前までの過去1年間に起きた大きな出来事を把握。新聞やテレビのほか、インターネットの活用も有効。</li> <li>時事問題：国際情勢、政治・経済、情報関連、環境、医療、福祉、スポーツなど。</li> <li>教育時事：教育答申類、改正法規、子どもをめぐる事件・事故・データなど。</li> <li>→『朝日キーワード就職』『時事ニューズワード』『現代用語の基礎知識』など。</li> </ul>				
論作文	<ul style="list-style-type: none"> <li>●確固たる教育観、児童・生徒観をしっかりともてるようにしておこう。</li> <li>●ボランティアやクラブ・部活動の経験を生かして述べられるようにしよう。</li> <li>●自己アピール文は書けるか。それを力強く表現できるか。</li> <li>●就職支援室（Pプラ）のキャリアコーディネーターに自分の書いた論作文を添削してもらおう。模擬面接も受けてみよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●志望県の過去の「出題テーマ」を知り、それを元にテーマの傾向に合わせて練習。志望県の制限字数、時間、形式に合わせて何度も書いてみる。書いたら添削を受ける。</li> <li>●よい答案例を参考に、題意のとらえ方や書き方のポイントをつかんでいく。</li> <li>→『論作文パスライン』</li> </ul>			
面接		<ul style="list-style-type: none"> <li>●面接ノートの作成。</li> <li>(1) 志望県の特徴について知っておこう。教育目標、そのキャッチフレーズ、県の重要施策（県の最大課題）、特産物、ゆかりの著名人など。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●面接ノートの作成</li> <li>(2) 志望動機、志望県受験理由、自分の長所と短所、教育観、指導観、教育実習体験、ボランティア、部活動歴など。</li> <li>(3) 志望県の傾向に合わせた「模擬面接」を実際に受けてみよう。就職支援室（Pプラ）で、集団討論、個人面接、自己PR、模擬授業、ロールプレイングなどの指導を試験直前に実施しているので、積極的に参加しよう。</li> </ul>		

- ★受験専門誌『教員養成セミナー』『教職課程』を毎月読もう！
- ★公開模試（学内模試・年間3～4回）を受験して自分の実力をチェックしよう！